クロスロード新聞

第30号

2011年3月1日

地味にお祝い30号！
クロスロードの活用広がる
大学からの報告続々！

発行元：108-8345　港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部　吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局

ファシリテーションを学びたい方へ朗報！

　すでにWEB上ではご案内していますが、3月6日13時半～16時30分の間、神戸市立地域人材支援センターにおいて、神戸クロスロード研究会の主催で、「クロスロード研修会」が開催されます。
　クロスロードやってみたいけれど、どうやって進行して良いかわからないという方、ぜひご参加ください。当日は、ゲームの進め方の実演と、ポイントの解説があります。
　当日あいにく参加できない方も、残念がるのはまだ早い！次号のクロスロード新聞で、内容をご紹介しますので、どうぞお楽しみに！

高大連携にクロスロード

　岩手県立大学では、高校生講座(高大連携ウィンターセッション)で、2日にわたり、クロスロードをお使いくださいました。2ページから3ページに報告を掲載しています。体験講座の高校生が全員無事入学されるといいですね！

↑大学全体の感想発表会でクロスロードの問題作りについて発表されるみなさん

→縁の下の力持ち！2日のセッションを支えた学生スタッフ、先生方で記念写真。お疲れ様でした。大成功でよかったですね。

目次

クロスロード研修会　1
高大連携にクロスロード　1
大学の体験入学にクロスロード　2−3
地域と大学を結ぶ　4
進級認定　4
こんなところに心理学(30)　5
ありがちな手抜き　5
インドネシアでダック　6
エルサルバドルでダック　7
土佐流・底上げ手法　7
発達支援者版　8
カクテル誕生！　8

クロスロード次号のご案内
発行予定日：
2011．5．2．
ダックエルサルバドル版、釜石版など続々。。。

責任編集
- チームクロスロード
- クロスロード・サポーター
- SPECIAL THANKS:
  高知県地震・防災課
  小溝智子（漫画企画）

大学の体験入学にクロスロード

昨年末の12月25日と26日に岩手県立大学のウィンターセッションがありました。これは、岩手県内の参加希望した高校生が大学にやってきて、各学部に分かれて大学での勉強の一端を体験するもので、毎年、クリスマスの時期に実施されます。私は学部の高大連携の担当で、総合政策的な思考ができて、学部の入門にちょうどいい企画は何かないかと、いつも悩んでいました。そんな中、クロスロードの存在を知り、今年のネタはこれしかないと思い企画しました。タイトルは「社会におけるジレンマ問題を考えようーカードゲーム教材「クロスロード」を使ってー」としました。

2日間のプログラムは下の通りです。参加した高校生は34名で、学部スタッフは教員5名、学生TA(ティーチング・アシスタント)は10名でした。

初日は、学部長の小針先生（専門は憲法）から学部紹介をしていただき、その後、伊藤先生（専門は火山学）からクロスロード（一般編）を使って、高校生のみなさんにクロスロード体験をしてもらいつつ、ジレンマ問題についてお話ししていただきました。

2日目はまず、法学と経済学の分野におけるジレンマ問題について、窪先生（専門は民法）と小井田先生（専門はミクロ経済学）から高校の1時間と同じ50分間でそれぞれ講義をしていただきました。その後、6つの班に分かれてクロスロードの演習です。2人の先生が新聞記事などクロスロードの問題作成に向いていそうなネタをあらかじめ用意してくださっていて、それを基に各班で話し合って問題を1つずつ作りました。クロスロードの問題とクロスチャート、クロスノートを作り、最後に、みんなの前で発表して先生方から講評を受けました。学部でのプログラムはここまでで、最後は講堂に行き、大学全体での感想発表会がありました。

主に伊藤ゼミの学生さんたちのがんばりで、回答がYES、NOのどちらにもなりそうなという難しい問題作りに苦労していた生徒さん達を、うまく発表まで導くことができたと思います。数年後、このウィンターセッションに参加していた生徒さん達の内、一人でも多く岩手県立大学総合政策学部の一員となることを期待しています。

最後に、高校生が作った問題を2つ紹介します。

(岩手県立大学総合政策学部　宇佐美誠史先生)

12月25日（土）

1．学部紹介と企画説明
2．社会におけるジレンマ問題についてークロスロード体験からー

12月26日（日）
3．ミニ講義
・窪先生による法学から見たジレンマ問題
・小井田先生による経済学から見たジレンマ問題
4．クロスロード演習
・各班に分かれてジレンマ問題を考える
・考えたジレンマ問題をクロスロードの問題形式にする
・自分たちで作った問題を発表する
5．大学全体での感想発表会

2日にわたるプログラム

あなたは... ファミレスの経営者... です。	
問題： ファミレスの禁煙化が進み、自分のお店でも禁煙化を検討している。しかし、全面禁煙にすると以前までの客が減るかもしれない。だが、排煙設備を整えるだけの資金もない。 無理しても排煙設備を整える？	
YES：排煙設備を整える	NO：排煙設備を整えない

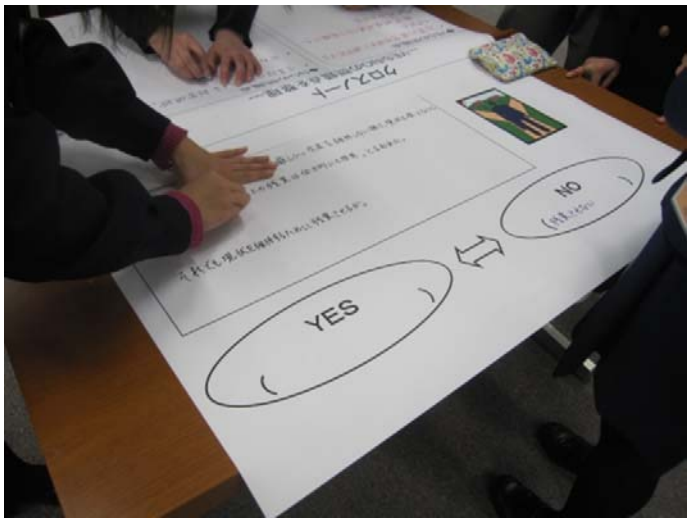
あなたは... 会社の社長... です。	
問題： 不景気のあおりを受け、財政が厳しい。 生産を維持しない限り、現状を保てない。しかし、社員からは「これ以上の残業は体力的に限界」と言われた。 現状を保つために残業させる？	
YES：残業させる	NO：残業させない

うーん、どれも力作で悩みますね。。。

1．大変な雪の中・・・

4．問題作成の様子

2．法学から見たジレンマの問題についての講義



5．問題作成の様子(2)

3．経済学から見たジレンマの問題についての講義

6．自分たちで作った問題の発表

地域と大学を結ぶークロスロードを用いた釜石市での取り組みー

岩手県立大学総合政策学部の伊藤研究室と釜石市（みなとかまいし地区会議）は，平成22年度から，共同研究の一環としてクロスロードを用いた地域防災まちづくりプロジェクトを展開しています．

釜石市は，平成14年7月に台風6号の通過に伴い非常に激しい雨に見舞われました．それに伴い松原地区では早朝に土石流が発生，2名もの尊い命が奪われると同時に町は壊滅的な被害を受けました．地域の方はこの災害経験を後世に伝え，土砂災害に強い地域を作りたいと強く要望され岩手県立大学と共同研究を行うことになりました．

プロジェクトは，まず当時の災害状況を知ることから始めました．平成22年7月29日に，当時災害を経験された方に松原地区コミュニティーセンターに集まっていただき，伊藤ゼミに所属する学生6名が中心となって，被災状況やその時の苦労話をお伺いしました．この時の様子は音声データと映像データとして記録し，研究室で詳細に分析を行いました．その中からジレンマとなる項目を抽出し，クロスロードとして取りまとめ，大学内で大学生を対象とした試行実験を重ねた上で平成23年2月18日に松原地区で地域の方にお披露目しました．

今後はさらなる改良を加え，地域や地元小中学校でのクロスロード大会を開催し，防災知識の普及に努めていく予定です．

（岩手県立大学総合政策学部　伊藤英之先生）

地域の方との座談会の様子

釜石市

松原版 防災カードゲーム

県立大作成

一帯の住民が初めて挑戦

←新聞にも紹介されました！

まずは当時を思い出し(上の写真)・・・次にクロスロードを楽しみました(下の写真)

ファシリテータ進級認定！

以下の方を**中級**に認定いたしました。(敬称略)

京都府府民生活部　危機管理・防災課	井上　真次
岩手県立大学総合政策学部	今井　フミエ
	井上　かほり
	後藤　万里奈
	田中　みなみ
	畠山　綾乃
	三浦　和樹

【応募先】108-8345
港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部　吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局
電話：03-5427-1251
ファックス：03-5427-1578
メール：kiikkawa@aoni.waseda.jp

電子投稿はこちら↓
http://maechan.net/crossroad/toukou.html

こんなところに心理学（30)：防災訓練お声がけの極意

クロスロード新聞第10号のこのコラムでご紹介した「社会的手抜き」を覚えておられますか?みんなで一緒に作業するときに、ひとりひとりの作業量が減ってしまう(つまり手抜きが起こる)という現象でした。

実はこの社会的手抜き、一緒にやる作業(課題）の性質によって、手を抜く人が異なることが知られています。

たとえば、綱引きや拍手のように、みんなで力を合わせて行うような課題(「足し算課題」と仮に命名します)では、メンバーの誰もが等しく手を抜きます。これに対して、共有の場所の清掃とか、集団での問題解決のように、誰か1人ができれば(やってくれれば)、集団の成果になるような課題では、能力の低いメンバーが手を抜きがちなことがわかっています。「優秀な人（あるいは、善意の人）がやってくれるだろう」と思ってしまうからです(スーパーマン課題」と命名します)。さらに、駅伝や集団での登山のように、全員が課題を達成しなければ、集団として課題を達成したことにならないような課題（「底上げ課題」と命名します）では、能力の高いメンバーが手を抜きます。小学校の九九の勉強のとき、「クラス全員が7の段をいえなかったら帰れません。」と、先生に言われた経験のある方はありませんか?あるいは、映画やテレビドラマなどで、できない仲間を励まして、「みんなで一緒に試験にパスしよう(資格を取ろう)」なんていっている感動的な場面がありますよね。つまり全員の底上げ。この時、課題を先にクリアーしたメンバーは、遅れたメンバーを励ましているように見えるのですが、実は、「自分ができても、能力の低い人が足を引っ張る」と思って、彼(女)は全力を出していないことがあるのです。

もちろん、手を抜いている本人は、必ずしも意識して手を抜いているわけではなく、無意識的にというか、自然と力が抜けているというのが、社会的手抜きの面白いところです。だからこそ、本人の意識向上を言うよりも、周りの人が気をつけてお声がけすることが大事になります。

そこで防災訓練。これから行う防災訓練がどのようなものかをちょっと考えてみてください。そうすると、「どの人に積極的に声をかけて役割を果たしてもらわなければならないか」がみえてきます。たとえば、みんなで力を合わせて救出する訓練では、優秀な人がいれば救出ができてしまいます(スーパーマン課題)。ですから、こういう訓練のときは、「救助できたのでよしよし」と考えるのではなく、むしろ能力がまだ十分でない人にこそ配慮して、積極的に参加してもらうようにした方がよいのです。同じようなことは日常でもありますよね。地域の防災リーダーが活躍しているときには、安心してその方たちに任せてしまいがちなのですが、活動に参加しない人に配慮することの方がポイントになります。

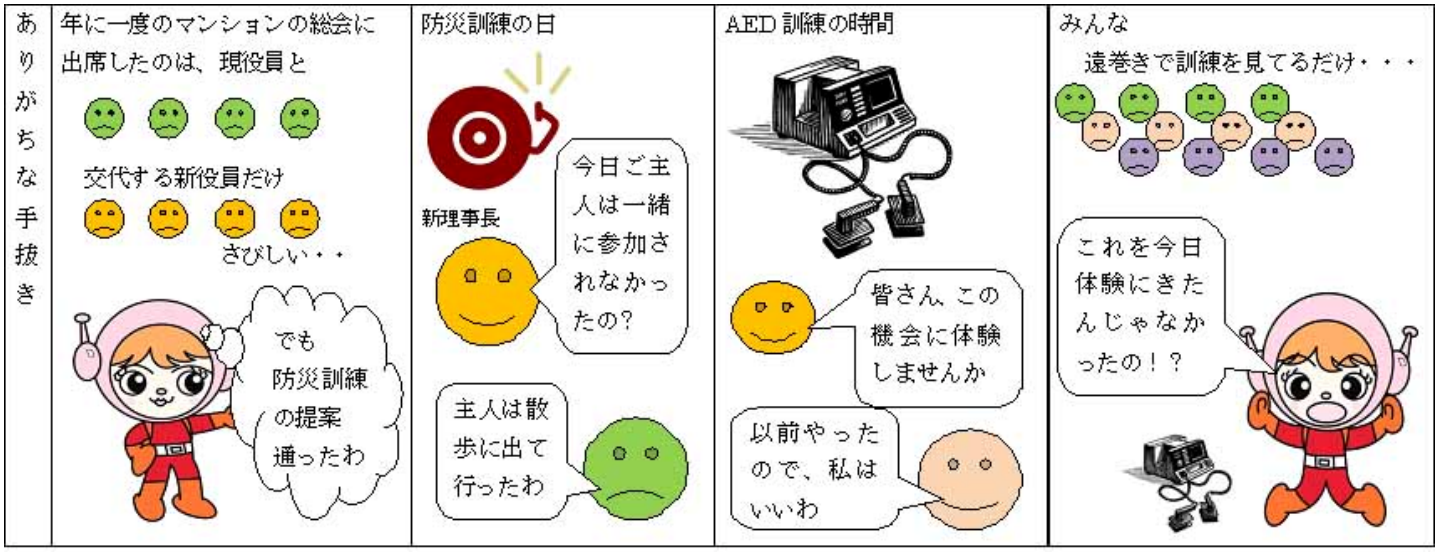
よくやるバケツリレーはどうでしょう?力の強い人や弱い人が一緒になって行う場合には（底上げ課題）、手抜きをしそうな屈強な男性にこそ、積極的に声をかけて訓練をしてもらうのが効果的です。

スーパーマン課題のときは普通の人にお声がけ、底上げ課題のときはスーパーマンにお声がけ、というのは常識と逆だなあ、と覚えてくださいね。

お声がけすることで、訓練を主催する方にも効果が。「がんばりましょう」とみんなにワンパターンに声をかけるのをやめて、誰に声をかけるべきか、考えながらやっていけば、訓練する方の意識も変わってくると思います。参加者にも指導者にも効果のある、一挙両得のこのコツ、是非使ってみてくださいね。

ありがちな手抜き

高知県防災キャラクター©やなせたかし



久々登場の「ダック！」---インドネシアに、

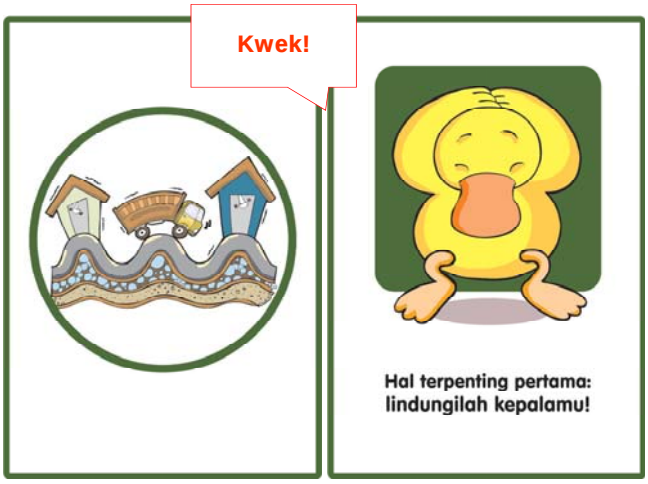
久々登場の「ぼうさいダック」。実は、今、海外でひそかなブームです。

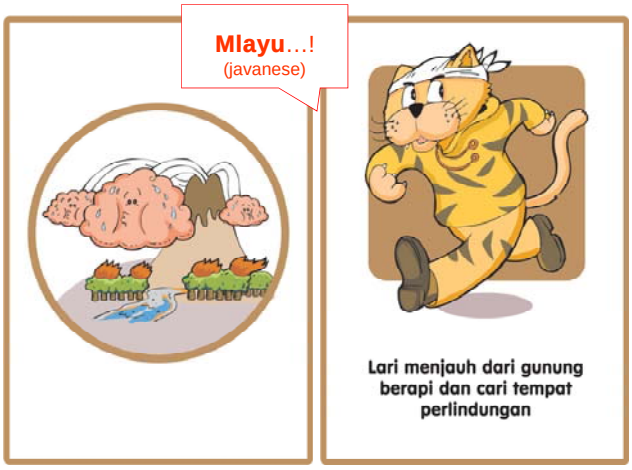
まず、新聞24号（6ページ）でも紹介した「インドネシア版」のその後から。場所は、インドネシア・ジャワ島中部、ジョグジャカルタという古都です。ジョグジャカルタは、ボロブドゥール寺院遺跡群など2つの世界遺産の玄関口としても有名です。他方で、災害関係では、2006年5月のジャワ島中部地震に見舞われたほか、町のシンボルでもあるメラピ（ムラピ）火山の噴火災害とも「長いお付き合い」をしています。メラピ（ムラピ）は、ズバリ「火の山」という意味。1548年以来、約70回もの噴火が記録され、2010年10月にも大噴火し、300人以上の方が亡くなりました。火山活動は、今も大変活発です。

そんな背景から、同地のガジャマダ大学のスタッフと京都大学防災研究所に留学していたリシェ（Risye Dwiyani）さんと一緒に作った「インドネシア版（メラピ版）」のメインテーマは、火山。それにその他の災害を組み合わせた内容です。図は、地震のカード（日本と同じダック）と火砕流（こちらは、トラです）のカード。イラストは、現地の方に新たに書き起こしてもらいました。同じ地震（ダック）でも、タッチが日本のものとは違っているのがおもしろいですね。そして、写真は、ガジャマダ大学で開催された、地域の方向けの「防災のつどい」で「ダック」が活躍している様子です。

ファシリテータをしているのがリシェさんです。

次は、「エルサルバトル版」。エルサルバトル、どこにある国でしょう？　わからない方は、中米の地図をご覧ください。こちらは、私が、神戸のJICAに中米からやって来られた防災研修団のメンバーにご紹介したのが





↑　インドネシア版ダック2枚。イラストがかわいいですね。

←リシェさんのお顔が見えないのが残念。でも、子ども達が夢中な様子はよくわかりますね。

久々登場の「ダック！」---そして、中米エルサルバトルに---

きっかけです。みなさん、とてもダンス好き。身体を動かすのが得意なのでしょう。だから、中米では、子どもだけでなく大人のみなさんにも、ダックが大好評なんだとか。そういうわけで、その時の研修生の方やJICAスタッフが現地で紹介したダックが、数年で「エルサルバトル版」へと発展したわけです。今、Protection Civil El Salvador（エルサルバトル市民防災団、といった訳でしょうか）とJICAの共同作品として、完成へ向けた最後調整の段階に入っています。

今日は、その中から、２枚だけご紹介します。ひとつ目はデング熱。雨が降った後など、きれいに掃除しましょうというわけ。二つ目は犬による咬傷。これ、結構大きな問題なのだとか。あわてて逃げ去ったりせずにゆっくり遠ざかるというアドバイスが、ゾウ（日本版では蜂のカードで使われているもの）のイラストで表現されています。このように、こちらも現地の特徴をよく反映した内容になっています。こんな応用が利くこと、そして、その応用を現地の方との共同作業で実現できるところが、「ダック」が愛される理由の一つのようです。

「エルサルバトル版」について詳しくは、青年海外協力隊として、現地でこの試みに加わって活躍中の中野元太さん（矢守の若い若い友人です）から、次号で御報告いただく予定です。どうぞお楽しみに！！

（矢守克也）

土佐流・底上げ方法

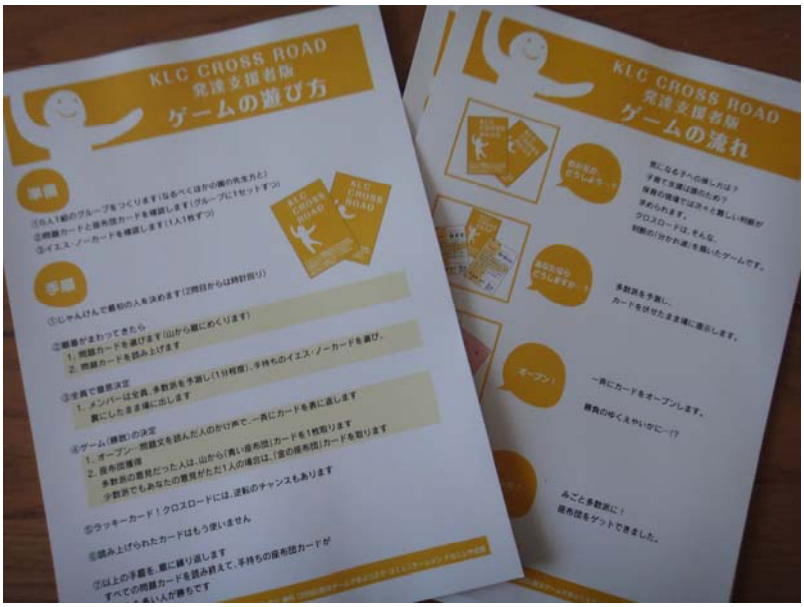
高知県防災キャラクター©やなせたかし

土佐流・底上げ手法	南海地震の揺れの長さを体験してもらうのに高知大学岡村真先生直伝の「100秒間の腕まわし」が効果的。腕まわしの開始前には、この一言。 「みんなでやる」体勢づくりをする	消火訓練のときは、 一人ずつやらなきゃ、終わらない仕組みにする	ＡＥＤ訓練のときは と、 個人的なメリットを強調	そして土佐流の決め台詞は、 「これ終わったら、おいしいお酒が待っているぞぉ~」 である

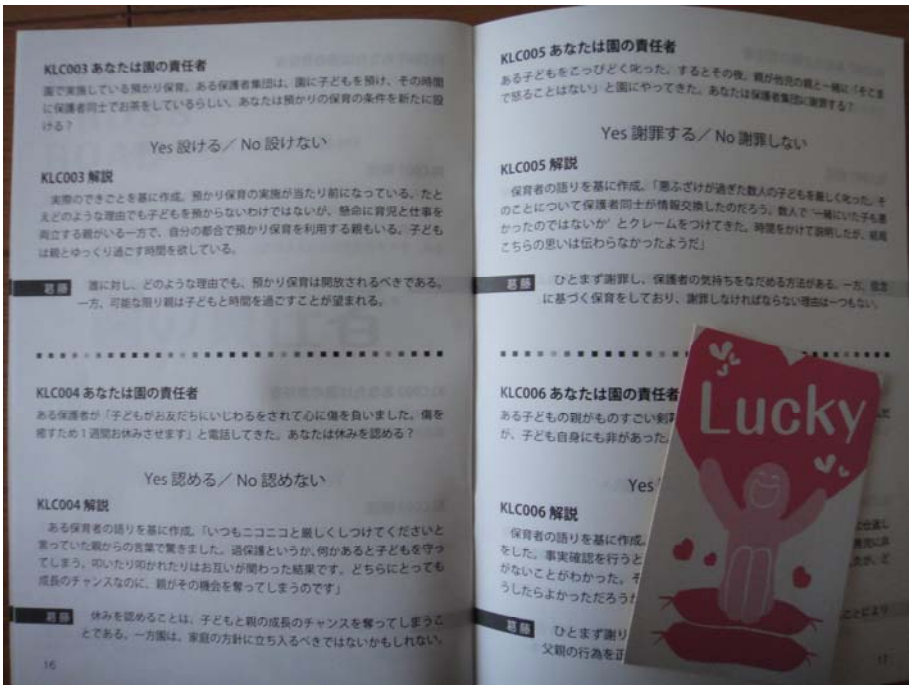
クロスロード発達支援者版キットが完成！

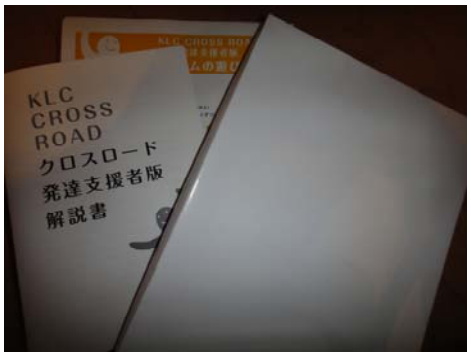
甲南女子大学(九州ルーテル学院大学から異動されました)の梅崎高行先生より、クロスロードの発達支援者版キットをお送りいただきました。

以前第25号で「保育者クロスロード」としてご紹介したものが、箱入りの豪華セットで登場です。写真で雰囲気をどうぞご覧ください。



→あそびかたの解説(裏と表）：デザインがきれいです
↓解説書。25ページの力作です。





↑箱入りでこんな感じです。

地味な大ニュース！クロスロードカクテル誕生！

このたび、神戸のバー「THE　BUTTERFLY」でカクテル「クロスロード」が誕生しました。ジン、アンゴシュラビターズ、ライムを混ぜ、それをジンジャーで割ったものだそうです。コンセプトは「苦味のあとに希望」だそうです。報告いただいた神戸クロスロード研究会の柿本さんによると、「甘くないけど、奥に甘さがあり、体にいい薬酒のような味わいです。」とのこと。

次回神戸に行かれる方は、ぜひこの店で注文してみてください。

↓このカクテルにはお金にまつわるある意味が。。。わかったあなたはかなりのカクテル通。